

活

Q

非結核性抗酸菌症と診断

健康診断で非

結核性抗酸菌症

と診断され、「定

期的にエックス線とCT検査をします」と言われました。症状が出てからの受診では遅いですか。

* (女性・55歳)

A

結核菌の仲間を総じて抗酸菌と呼びます。結核菌を

除いた数々の菌を、まとめて非結核性抗酸菌といい、これらの菌が病気を起こすと非結核性抗酸菌症となります。

(このうち人に病気を起こす)

紙上診察室

佐藤 滋樹氏



す菌は日本ではアビウム菌、イントラセラーレ菌が代表的で、大半の場合肺に病気を起こします。二つの菌はよく似ており、私たちの調査で近年増加していることが明らかになり、特に健康な中年以降の女性の発病が増えています。

結核菌と違って人から人へは感染せず、自然界など環境から吸入感染していると考えられています。結核菌より毒性は弱く個人差はあるものの、多くは何年もかけて進行します。痰から菌を発見すること
で診断しますが、初期は痰に菌が見つかりにくく、胸のエックス線写真やCTで定期的に進行度合いなど様子をみるようになります。病気が進行すると、痰が続く、痰に血が混じる、息苦しいなどの症状が出てきますが、それから治療を開始してはタイミングが遅い

定期検査で治療遅れ防ぐ

「紙上診察室」への投稿は〒460 8511(住所不要)中日新聞生活部。ファクス052(222)5284。電子メールkenkou@chunichi.co.jp 住所、氏名、年齢、連絡先をお忘れなく(紙面では匿名)。電子媒体でも使用します。

ことがあります。薬は効きにくく、抗菌薬治療で菌が消えてしまうのは七割程度です。菌が消えてからも一、二年間治療します。治りにくい病気ですので、治療が遅れないように定期的な診察や検査を受けてください。(名古屋市立大病院呼吸器内科病院教授)